

EdgeCortix、エッジAI開発にiSpaceの月データを活用

Nick Flaherty



ispaceとチップの設計会社であるEdgeCortixは、EdgeCortixの低消費電力エッジAIプロセッサを使用したシスルナ開発のための契約を締結

EdgeCortixは、現在開発中のSAKURA-II プラットフォーム エッジAI アクセラレータに、既存のデータおよび今後のミッションから得られるデータを活用します。このアクセラレータは、特許取得済みである低遅延の[Dynamic Neural Accelerator \(DNA\)](#) 技術と、MERAソフトウェアおよびコンパイラフレームワークを使用しており、最大60TOPSの性能を実現します。

[European rover heads for the Moon](#) (欧州の探査車、月へ向かう)

株式会社ispace 代表取締役CEO & Founder 袴田武史氏は以下の通り述べています。

「効率的なAI技術のリーダーであるEdgeCortix社との協力により、シスルナ経済圏の構築のため、共に月面における課題の解決に取り組んでいけることを嬉しく思います。」

EdgeCortix株式会社 CEO兼創設者のダスグプタ・サキヤシガ氏は次のように述べています。

「私たちは、[SAKURA-II](#)のAI専用プロセッサを月周回システムに統合するための戦略的計画をispaceと共同で開発できることを嬉しく思います。宇宙はエッジコンピューティングの最後のフロンティアであり、私たちは、ミッション中のAIワークロードのインテリジェンス、効率性、有効性を向上させるというispaceのミッションを支援したいと考えています。」

NASAは1月に、現在のSAKURA-I AIアクセラレータ・プラットフォームが地球軌道や月面を含む宇宙ミッションに適していることを確認しました。これにより、高い放射線耐性を示し、その技術が実証されました。

NASAの電子部品・パッケージングプログラム (NEPP) は、EdgeCortixのAIアクセラレータに対して2段階の試験を実施しました。この試験では、宇宙環境を模した条件下での放射線耐性を評価するため、プロトンおよび重イオン放射線を照射しました。

HAKUTO-Rミッションは、月への航行からのデータを送信しており、先週、無事にフライバイを完了させました。

Apex 1.0と呼ばれる新しい月面着陸船を搭載したミッション3は、ispace USが主導し、2026年に打ち上げられる予定です。また、日本で設計が進められているシリーズ3ランダーを用いた同社のミッション4は、2027年までに打ち上げが予定されています。

www.edgecortix.com/ja; www.ispace-inc.com; nepp.nasa.gov

Translation prepared by EdgeCortix

- EE News Europe (2025/03/27). Original English article: <https://www.eenewseurope.com/en/edgecortix-taps-ispace-moon-data-for-edge-ai/>
- Copyrights and other intellectual property rights to articles, photographs, charts, headlines, and other information (hereinafter referred to as "Information") provided through the Service belongs to the providers of such Information.
- Unauthorized reproduction of Information provided by this service is prohibited.
- The service may not be used by any other third party other than the subscriber, regardless of the method, with or without compensation.
- Copyright © 2025 European Business Press SA. All rights reserved.